地域包括ケア～急性期医療から在宅介護まで～」をメインテーマに特別講演、シンポジウムのほか、一般演題(口演21題、パネル展示6題)、医療機器展示(3社)を行いました。

特別講演は、日本慢性期医療協会副会長の池端幸彦先生に「地域包括ケアの現状と今後の展望～これからの医療・介護はどう変わるのか～」と題してご講演頂きました。

シンポジウムでは、地域包括支援相談員、理学療法士、訪問看護師、医療ソーシャルワーカー、地域包括支援相談員、開業医の5名のそれぞれの立場から医療、介護の現状と課題の報告がなされました。

超高齢化社会に向けた国策である「地域包括ケアシステム」を長崎という地でいかに作りあげていくか、すべての参加者が熱心に耳を傾け活発な討議がなされました。

本学術集会を盛大のうちに終了できたのも、ひとえに関係者皆様方のお力添えの賜物と心よりお礼と感謝を申しあげ、開催報告とさせていただきます。

## 第8回大阪支部学術集会

**学術集会会長：大手前病院病院長　大口善郎**

会場風景

2015年2月21日(土)に大阪国際交流センターにて開催しました。今年は2025年問題の10年前にあたることから学術集会テーマを「高齢社会の医療マネジメント」とし、シンポジウムでは「看護教育」「退院支援」の2つをとりあげ、2つの特別講演は「政治からみた医療情勢」を梅村 聡 氏(日本医師会総合政策研究機構客員研究員)に、「大阪のまちづくり・グローバル教育」を帯野 久美子氏(和歌山大学理事国際交流男女共同参画担当・副学長)にお願いしました。またわれわれ医療現場の仲間からの教育講演として「医療チームの安全を支えるノンテクニカルスキル～スピークアップとリーダーシップ～」を中島和江氏(大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部教授)にお願いし、2つのランチョンセミナーで「Resilienceからリーダーシップへ! 前向き医療安全への誘い」を辰巳陽一 氏(近畿大学医学部附属病院安全管理部教授)に、「大腸CT 検査とマネジメント」を北山聡明 氏(KKR大手前病院放射線科医長)にお願いしました。

参加者数500名・演題数90題を想定して学術集会準備をしましたが当日は723名の参加者が3つの会場に分かれて総演題数113題について活発な討議がなされました。そのため会場に入りきれないセッションもあって参加者の皆様にはご迷惑をおかけしたことと思います。改めましてお詫び申し上げます。

## 第15回東京支部学術集会

**学術集会会長：東京女子医科大学**
**病院機能・情報管理部運営部長　村杉雅秀**

2015年2月28日(土)、東京女子医科大学弥生記念講堂、第一臨床講堂、第二臨床講堂にて、日本医療マネジメント学会第15回東京支部学術集会を開催いたしました。

「医療の質とこれからのチーム医療－2025年を見据えた地域包括ケアシステム－」をテーマに基調講演2講演、教育講演1講演、特別講演1講演、パネルディスカッション5題、ランチョンセミナー2講演、一般演題43題と多くの発表と活発なディスカッションが行われ310名のご参加を頂き、盛会裡に閉会を迎えました。

基調講演では、国際医療福祉大学の武藤正樹 先生に「病床機能分化と連携」、厚生労働省老健局の逢坂悟郎先生に「医療と介護の対等な連携協議を目指して」、教育講演ではふれあい歯科ごとうの五島朋幸 先生に「食支援、経口摂取の維持など」、白十字訪問看護ステーションの秋山正子 先生に「在宅ケアから地域包括ケアへ」と題した興味深いご講演をいただきました。また、日本医療評価機構IT化・情報機器部会の5名のパネラーによる「医療のIT化と医療安全マネジメント」と題したパネルディスカッションを行いました。

参加者は看護師、医師をはじめ、歯科医師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技士、理学療法士、管理栄養士、社会福祉士、事務系、診療情報管理士、診療情報技師など様々な職種の方にご参加を頂き、各会場、各セッションでは活発な討論がありました。

最後に、今回の学術集会を開催するにあたりご協力をいただきました皆様、また、御参加戴きました皆様に心から感謝申し上げます。

## 第15回福岡支部学術集会

**学術集会会長：国立病院機構九州がんセンター副院長　藤 也寸志**

2015年2月28日(土)、福岡市のエルガーラホールを会場として、「みんなで支えよう～がんと認知症～」をテーマに第15回福岡支部学術集会を開催した。